

第14回 足羽川ダム環境モニタリング委員会

【委員会の主旨及びこれまでの取り組み経緯】

足羽川ダム建設事業における環境調査及び環境保全措置について、専門家の意見を伺うことを目的に平成26年3月「足羽川ダム環境モニタリング委員会」を設立。

これまでに13回の委員会を開催し、足羽川ダム環境モニタリング計画や環境保全措置の計画についてご意見をいただき、ダム建設事業への進捗に合わせて環境保全に取り組んでいます。

【第14回環境モニタリング委員会 開催概要】

令和8年3月9日に足羽川ダム工事事務所において開催。

委員会では、令和7年モニタリング調査結果と環境保全措置の内容及び令和8年モニタリング調査計画（案）についてご意見をいただき、今後の調査及び環境保全措置の実施計画が確認されました。

委員会開催状況



福原委員長 挨拶



委員会開催状況

委員名簿（敬称略、五十音順、◎：委員長）

委員氏名	担当分野	現職等
うえの ゆうすけ 上野 裕介	鳥類 生態系	石川県立大学 生物資源環境学部 環境科学科 准教授
おくむら みつし 奥村 充司	水環境	福井工業高等専門学校 環境都市工学科 非常勤講師
◎ ふくはら てるゆき 福原 輝幸	水環境	福井大学 名誉教授
まつた たかき 松田 隆喜	魚類	福井県立道守高等学校 教諭
まつもと じゅん 松本 淳	植物	越前町立福井総合植物園 園長

第14回 足羽川ダム環境モニタリング委員会

I. 事務局からの報告

- ・ 委員からの意見に対する対応状況について
- ・ 令和7年モニタリング調査結果と環境保全措置について
- ・ 令和8年モニタリング調査計画（案）について
- ・ 足羽川ダム環境モニタリング部会設立について

II. 委員会での意見

委員からの意見は以下のとおりです。

委員からの意見
クマタカDペアの繁殖失敗について、工事騒音による影響は低いと考える。今後も引き続き調査を実施していくこと。
クマタカDペアの新しい巣について、カメラの設置の必要性を含めて検討すること。また、行動範囲が南下しているため、変化を追えるようなモニタリング体制とすること。
アジメドジョウの調査結果について、水温は20℃～25℃の間で調査を実施し、生息場所、個体の大きさを加味した調査結果とすること。
アジメドジョウは2つのタイプ（斑紋収束型・斑紋分散型）がいるため、どのタイプが部子川に生息しているか調査すること。
底生動物の調査結果について、河川水辺の国勢調査のデータとリンクさせて整理すること。
河床材料について礫等の大きさだけでなく、表面に泥が付着しているか及び浮き石率も調査すること。

III. 今後の予定

- ・ 本委員会の委員からの意見に対して、今後対応を行い、次回の委員会で対応状況を回答する。
- ・ 令和8年モニタリング調査計画に基づきモニタリング調査を実施する。
- ・ 工事やモニタリング調査の実施状況を適宜委員に報告のうえ、ご指導・ご助言を仰ぎながら必要に応じて速やかな対応を行い、環境保全上の影響を極力小さくするように努める。
- ・ 工事の進捗状況を踏まえ、現地視察等を実施したうえで、環境保全措置の実施状況等について、委員から意見を伺うものとする。
- ・ 令和8年度に足羽川ダム環境モニタリング部会を設立し、モニタリング調査計画の策定を行う。